第6回

「江戸近郊の山々を学ぶ－参詣と遊山－」

平成14年（2002）

多摩の西には山々が連なり、その頂のいくつかは古くから山岳信仰の対象でした。江戸後期には交通の整備や庶民生活の余裕を背景に、そうした山々への参詣がポピュラーになり、旅には行楽の意味合いも生まれてきます。この講座では多摩や江戸近郊の、代表的な聖地の山を取り上げ、江戸後期の信仰や行楽の様子を、講座や見学会を通して理解を深める講座としました。

□第１講　６月29日(日)　江戸後期、庶民の山岳信仰と遊山　56
講師　村上　直（法政大学名誉教授）

□第２講　７月28日(日)　御岳山―御神宝とオイヌサマと太占―　58
講師　齋藤　慎一（青梅市文化財保護審議委員）

□第３講　８月25日(木)　見学会：御岳山・武蔵御嶽神社・山頂御師集落　60
講師　齋藤　慎一

□第４講　９月29日(日)　高尾山―護摩札配札と代参講にみる人々のきずな―　61
講師　外山　徹（明治大学博物館）

□第５講　10月10日(日)　相州大山―雨乞い、豊漁、商売繁盛の山―　63
講師　大野　一郎（厚木市郷土資料館）
大野　一郎「『相州大山』から、修験道へ」

定員　70名
場所　多摩交流センター（第３講のみ御岳山）

安政３年武州高尾山境内案内全図（部分、高尾山薬王院蔵）

平成14年6月29日　午後1時30分～3時30分

第1講　江戸後期、庶民の山岳信仰と遊山

村上　直（法政大学名誉教授）

1　山岳信仰と修験道について
関東地域霊山分布図参照

2　大都市（江戸）と近郊の交流と変容
—信仰と遊山・観光—

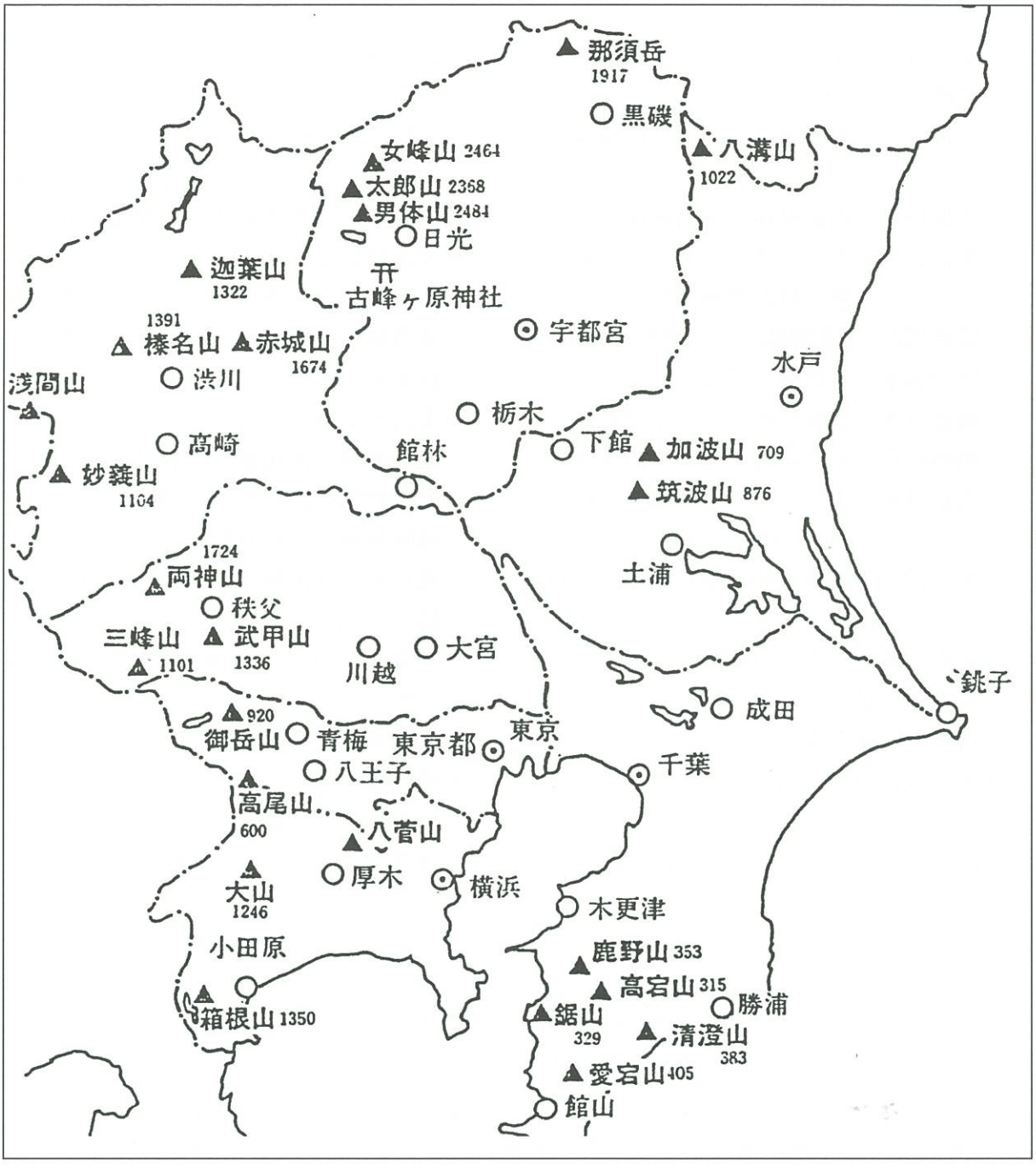
3　関東地域の自然環境と山岳信仰の形成
①江戸幕府の庇護を受けた山岳
日光・筑波　等
②民衆の信仰に依存した山岳
赤城・榛名・妙義・三峯・武蔵御岳・高尾・大山　等
寺社の参詣　……御師（御祈祷師）
……講中（宗教的集団）
山岳での修業……修験道者（山伏）

4　秩父三山（両神山・武甲山・三峯山）
三峯信仰

5　武蔵御嶽神社（御嶽信仰）
＊日本武尊の東征伝説
＊蔵王権現の霊場…修験道の象徴
＊加持祈祷の効験を信用する古習→庶民
＊神仏混淆→神仏分離（神仏判然令）→廃仏毀釈
＊江戸の成立と「大江戸」への発展—百万都市と近郊諸村
＊江戸地廻り経済の展開
＊庶民の信仰と遊山・行楽の旅
＊御岳山関連の文献
『御嶽まうで』（老野沢紀行）（文政6年、山田早苗）
『御嶽山一石山紀行』（文政10年、竹村立義）
『玉川泝源日記』（天保13年、山田早苗）
『御嶽山道中記　御嶽菅笠』（天保5年1月齋藤義彦作　鞍矢市正刊行）
『武蔵御嶽神社及び御師家古文書学術調査報告書（1）—金井家文書目録—』（平成13年3月、法政大学・青梅市刊行）

6　高尾山（薬王院）信仰…関東真言宗三大本山
＊高尾山と自然環境
高尾十景と山林、十三州見晴台
＊高尾山と修験道
天狗・水行修行・火渡り
＊武家（大名と旗本）と庶民の参詣
＊中興本尊
飯縄大権現…飯縄権現堂（御本社）
＊開山本尊
薬師如来……薬王院大本堂
＊不動明王・二童子
奥之院不動堂
…高尾山信仰の対象は飯縄権現堂（御本社）、薬王院大本堂、奥之院不動堂
＊富士浅間社…富士信仰

第6回



関東地域霊山分布図

＊地回り経済の発展
＊甲州道中と「諸国道中商人鑑」と参詣人の宿泊
＊高尾山薬王院の参詣人―信仰・遊山・観光・名所
＊高尾山薬王院関係の文献
寛政７年　清瘦園主人『武野遊草』
文政10年　竹村立義『高尾山石老山記』

第6回

文政11年『新編武蔵風土記稿』
文政11年　植田孟縉『武蔵名勝図会』
文政11年　『多波の土産』
天保４年　勝志摩守正朝『羽邑臨視日記』
天保13年　山田早苗『玉川泝源日記』
慶応２年　アーネスト・サトウ『外交官の見た明治維新』
明治13年　『皇国地誌』（上椚田村誌）
明治25年　北村透谷『三日幻境』
明治31年　小林田城『八王子繁昌』
明治42年　大町桂月『関東の山水』
大正11年　中里介山『千年樫の下にて―』『草庵日誌』
大正12年　田山花袋『東京近郊・一日の行楽』

7　大山（阿夫利山）信仰
（中腹）不動明王
（山頂）石尊大権現
＊矢倉沢往還＝大山道（大山街道、信仰の道）
江戸―三軒茶屋―二子・溝口―厚木（六斎市）―伊勢原―矢倉沢→
＊大山講→雨乞いの神、信仰
＊大山道と大山詣
田村通り、柏尾通り、青山通り（矢倉沢往還）、府中通り、八王子通り、蓑毛通り、六本木通り、羽根尾通り
＊大山信仰と文人
宝井其角（元禄４年）、小林一茶、賀茂真淵（明和８年）、仮名垣魯文（安政４年）
＊文人と文献
三井高邦「大山詣り」（宝暦４年）
大田南畝「狂歌集」（天明３年）
高野長英（文政９年）
渡辺崋山「游相日記」（天保２年）
橘　守部〈和歌〉（天保２年）
十返舎一九「大山道中案内記」（天保５年）
二宮尊徳　大山参拝（嘉永年間）
＊浮世絵
葛飾北斎、安藤広重、歌川国芳、歌川貞秀

第6回

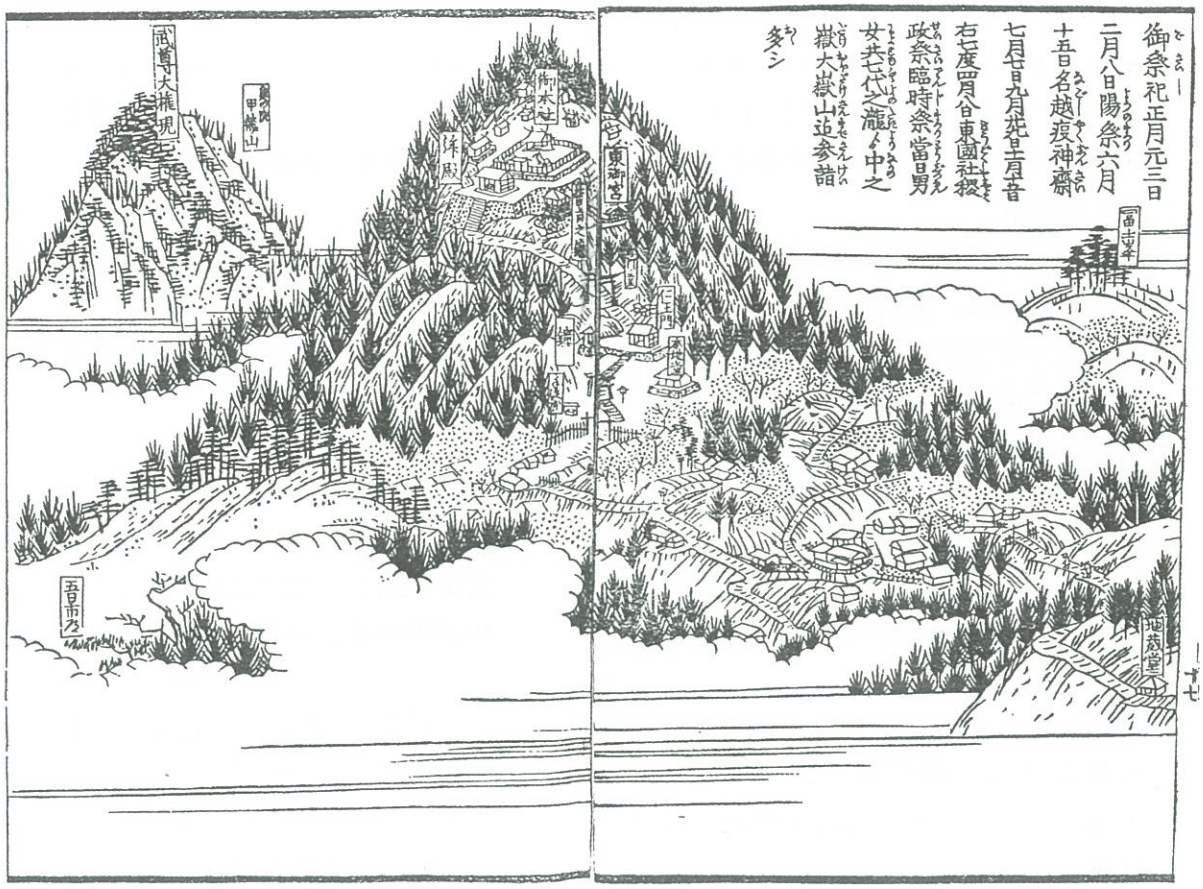
平成14年7月28日　午後１時30分～３時30分

第２講　御岳山

―御神宝とオイヌサマと太占―

齋藤　慎一（青梅市文化財保護審議委員）

1　中古、中世の武蔵国の霊山としての存在感と、後背地として近世都市江戸との関わり
＊天正19年11月、社領三十石寄進
＊文禄・慶長の出兵に、徳川家康渡海の御座船の船材を御岳山より伐出す。
＊徳川家康による社殿造営
＊慶長11年11月　江戸城用材の石灰搬出。青梅街道確定。江戸との交通路
＊明暦２年代　御岳山神主は「たき炭」を生産。青梅の市（まち）で販売。生産物による江戸との交流。販路・搬出路としての青梅街道。「山・坂本御師六十坊」の存在



御嶽山図（『御嶽菅笠』、靭矢栄三氏蔵）

＊山の根二万五千石という生産地

2　「御神宝」

神器としての中世工芸品に対する、江戸の教養人による文化財としての認識・評価。神社側は存在、地位、権威の上昇・拡大の起点とする。

＊宝永６年２月序（日下部景衡（くさかべかげひら））、新井白石著「本朝軍器考」（巻九）

＊享保11年暮秋四日、下方貞親「武州御嶽鎧之図」（内閣文庫）で御岳山の赤糸威鎧「日本武尊御鎧」、「紫裾濃鎧」は「重忠奉納鎧」と紹介、神前で写生、作図

＊享保12年２月、享保19年、八代将軍徳川吉宗が上覧、原寸図作成。御用具足師岩井源兵衛に模造させる。紫裾濃鎧の組紐模造を試み失敗。また保護のために櫃を作り寄進

＊文化11年、武家故実の研究家真野安重、組紐両面亀甲模造に成功、奉納。

＊江戸住久留米藩士の故実研究家松岡行義、登山、鎧を視察、天保10年、模造する。（「後松日記」巻十九）

＊寛政13年頃、松平定信による調査、作図して「集古十種」に収載。

→神宝への文化財としての教養人の評価・研究は、社格の権威化へ

＊日本武尊の鎧と甲冑の御岳山埋納伝説の附会。→武蔵国名起源の山→伝承、社号の公認→国土の守護神、武蔵国の守護神

3　「オイヌサマ」（神狗）―山岳の猛獣→神宝にかかわる英雄日本武尊の侍者としての白狼、黒狼として説話的霊獣へ。

＊神札、神影に日本武尊の侍者として登場、絵画化

＊五穀豊穣（害獣駆除）の守護神から財物守護（火難、盗難除け）の霊獣へ。
　→より普遍的な存在へ→農山村から都会を含む配札

＊御師と講衆（檀家・旦那）の関係。講衆の登山

4　古代神事「太占（ふとまに）」の確立。古神道の教養（大麻止乃豆乃天（おおまとのつの）神の社号の採用）と御岳山の自然条件

＊御師は豊作物の種子や蚕の種紙を預かり保全。生産活動にもとづく師檀関係。元禄年代、享和年代には蚕種紙の保全管理

＊種子と結びついた予見への信仰の要請、予見神事の執行（正月二日という祭日の設定）

＊幕末の復古神道学者、斎藤義彦（幕府神道方役人。神道学吉川家の学頭）の御岳山への滞在。復古神道の鼓吹の影響の可能性。御岳山の教学

5　おわりに―「御嶽菅笠」に見る御嶽参詣のたのしみの便利

＊青梅街道の存在と講と代参の組織

＊人馬継立の宿村の存在

＊旅宿・茶屋の存在

＊江戸より一六里の景勝地。文芸的趣好、発想。→俳諧・和歌の教養
　「御嶽八景」→根岸典則の門流
　「俳諧御嶽連」→春秋庵梅笠、白眼台月村の門流

＊行程地図に見る遊山と長期の旅程
　…江戸の都市的熟成による文化事情を起点とした宗教的発展
　…近世支配体制の構想を起点として、民衆中心の経済的余剰による行楽的発展

第6回

平成14年8月25日　午前10時～午後3時30分

第3講　見学会：御岳山・武蔵御嶽神社・山頂御師集落

齋藤　慎一（青梅市文化財保護審議委員）

第3講は御岳山の見学会になりました。コースは下記です。

御岳ビジターセンター（正覚寺跡）→山頂御師集落→釈迦堂（本地堂）跡・世尊寺跡・綾広水道の滝碑（川合玉堂撰・筆文）→随神門（旧仁王門）→大菩薩峠文学碑（昭和31年、白井喬二撰）、開平三知流剣術額碑と再興碑→銅（からかね）の鳥居（三の鳥居、安永9年）、馬玉祠→霧の御坂→武蔵御嶽神社→宝物殿→御師集落

本殿裏の大口真神社を見学

神社建築について、斎藤先生の解説

武蔵御嶽神社本殿を見学

平成14年9月29日　午後1時30分～3時30分

第4講　高尾山

―護摩札配札と代参講にみる人々のきずな―

外山　徹（明治大学博物館）

1　2冊の帳簿

①年不詳『永代日護摩家名記』

＊護摩札の配札先一覧

＊檀家名・居住地・加入年の記載

＊元禄～天明までを網羅

②文化6年『江戸田舎日護摩講中元帳』

＊護摩札の配札先の一覧

＊檀家名・居住地の記載

＊上段・下段2種の檀家

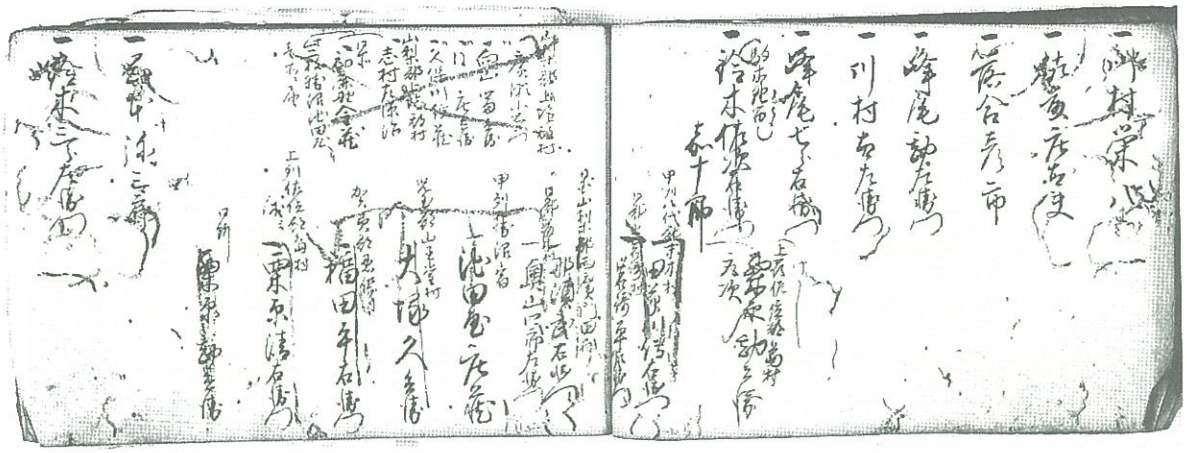
＊弘化年間まで記載

2　護摩札の配札

①護摩檀家分布の特徴と地域的展開

＊檀家在住地の展開 ～『家名記』から

・元禄～正徳期…江戸在住者中心、八王子宿・埼玉郡・足立郡が半分弱



『江戸田舎日護摩講中元帳』（高尾山薬王院蔵）

・享保～延享期…江戸在住者の加入鈍化。武蔵国東部、多摩郡西部で著しい増加　武蔵国中部（入間郡・高麗郡）、相模国北部、甲斐国にも加入者

・宝暦～天明期…武蔵国中部、相模国北部、甲斐国に加入者増　周縁部に向かうように加入者増加

＊檀家分布の傾向～『元帳』から

・高尾山直下、八王子宿、多摩郡西南部、甲州道中沿道…50％

・江戸…25％

・武蔵国入間郡・高麗郡・新座郡

・甲斐国東部

・上野・武蔵国境近辺他

→甲州道中を横軸、日光裏往還を縦軸

②配札の取次

＊取次者

・「上ニ－印有之施主」と「取次与有之候下段之施主」

・上段の檀家（薬王院による直接配札者）は全体の３分の１

・取次者93名（当初）　八王子宿や甲州道中沿道の宿々に在住

＊取次の方法

・自村・町の檀家や近隣の村々に対する取次

斉藤伊兵衛（狭間村）→同村の７名

長谷川忠治（府中宿）→同宿４名

多摩川南岸一帯

・遠距離の他村・町に対する取次

鈴木佐次右衛門（上長房村駒木野宿）

→上野・武蔵国国境近辺と甲斐国勝沼宿周辺

山口周助（上長房村小名字）

→川越・高麗郡・入間郡の村々

相模屋吉右衛門（八王子宿）

→青梅宿近在・秋川沿岸の村々・八王子宿北方

3　代参講の発生

①代参講とは？

＊講金の拠出

＊抽選で代参者を選んで毎年参詣

＊護符の分配

②取次関係の収れん

＊伊野与市（寺方村）への取次

…中島仙助（下恩方村）→長谷川忠治へ変更

③散田村の事例
＊散田村在住者13名による代参講
＊前段階の取次関係
田倉十兵衛…抹香屋磯五郎（八王子八木宿）の取次
原善次郎・斉藤利兵衛・山崎周三郎・石川儀兵衛…丸屋伊兵衛（八王子千人町）の取り次ぎ

参考文献

村上　直編『近世高尾山史の研究』名著出版　1998年

平成14年10月27日　午後1時30分～3時30分

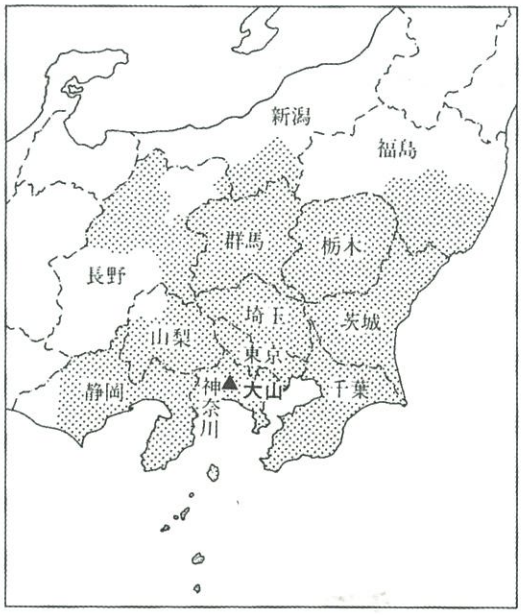
第5講　相州大山

―雨乞い、豊漁、商売繁盛の山―

大野　一郎（厚木市郷土資料館）

1　大山信仰とは
＊多様な信仰形態
農耕守護神的性格
漁業・航海守護神的性格
修行霊場的性格
死霊鎮座的性格
除災招福神的性格
＊その背景
一～三次信仰圏とのかかわり

2　厚木を通る大山参詣者
＊厚木「江戸・北関東・中部からの大山街道の集約地点」
・北から：八王子往還、甲州道
・東から：矢倉沢往還、柏尾通り、田村通り
・南から　平塚道（八王子往還）
・西から　小田原からの富士山等のセット参詣含む



明治初期の大山講の分布
（平塚市博物館『大山の信仰と歴史』より）

3　各地の大山信仰
＊聖地相互の関連とセット化
・多摩地区の山　御岳との関連
「御嶽チョックリ　大山ガックリ」
・富士山　信仰対象としての類似性、相違点、初山習俗、御中道巡から
・江ノ島、藤澤、小田原

第6回

「相州大山」から、修験道へ

大野　一郎（厚木市郷土資料館学芸員）

私がお話をさせていただいたのは「相州大山」に対する信仰でしたが、当時は信仰内容、信者、信仰圏などさまざまな分野に興味がありましたので、まとめてお話ができる、富士と大山、大山と武州御嶽といった「聖地のセット」をテーマとしました。このテーマは、西海賢二氏、原淳一郎氏が精力的に論考を発表されていますが、微力ながら私も取り組み続けており、富士と大山の祭神の関係、変遷について『富士信仰研究』『民俗』などに発表してきました。

講座当日、学生時代に参加させていただいた武州御嶽の民俗調査で大変お世話になった齋藤慎一先生に、久しぶりでお目にかかることができ、大変懐かしかったことを思い出しました。同時に、論文作成等で大変お世話になったにも関わらず、何の恩返しもできていない武州御嶽の御師の方々に対して、きちんとした報告ができるように調査を再開したいとも考えています。

近況報告ですが、展示会「あつぎの修験者」や体験講座「八菅修験の跡を辿る」を企画する中で、里修験とよばれ、寺子屋教師、拝み屋のように軽んじられている近世の宗教者に惹かれるようになりました。マルチプレーヤーで何でもこなしますが、専門家にはなりきれず、ちょっと怪しげな彼らに親しみを感じています。